

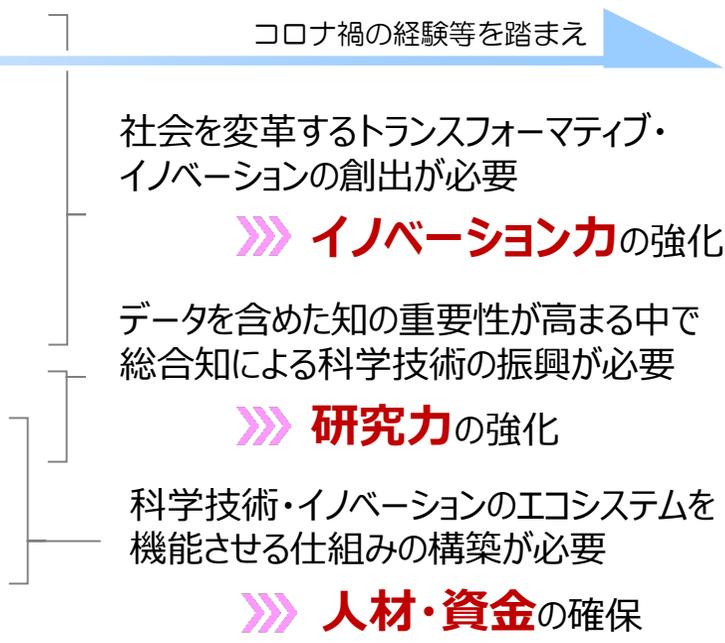
# 「科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性(案)」の五つの柱

## “ 基本的考え方 ”

- ◆ 次期基本計画は、**人類の幸福の最大化と安全・安心の確保**に資するべく、**全ての国民に科学技術・イノベーションの果実を届ける「道しるべ」**
- ◆ Society 5.0の具体像を共有し、**スピード感と危機感**を持ってこれを実装するため、**国を挙げて新しい社会を牽引する科学技術・イノベーション政策を実現**



- ① Society 5.0の**具体化**
- ② **スピード感と危機感**を持った**社会実装**
- ③ **人類の幸福**や**感染症・災害、安全保障環境**を念頭に置いた**科学技術・イノベーション政策と社会との対話・協働**
- ④ **研究力**の強化と官民の**研究開発投資**の在り方
- ⑤ 新しい社会を支える**人材育成と国際化**



**実現に向けた戦略・方向性が必要**

# 科学技術・イノベーション基本計画の策定に向けたスケジュール

2019年

4月

2020年

3月

7~8月

10~12月

12~1月

2021年

1~2月

2~3月

## 2021年度からの基本計画

諮問

第5期  
レビューまとめ

検討の  
方向性  
(案)

素案

パブリック  
コメント

答申

閣議決定

## 関連のCSTI本会議（想定）

● 諮問

8/28

● 検討の方向性(案)報告

● 答申

統合イノベーション戦略推進会議

8/6

10/29

12/20

3/26

6/5

7/1

8/4

第8回

9/10

第9回

10/16

第10回

11/18

第11回

12/14

第12回

(未定)

基本計画専門調査会

9月以降

全国説明会・意見交換会

- 次期基本計画におけるEBPMによる効果的な進捗管理について
- 多年度での研究開発投資の安定的支援について
- 若手研究者支援の強化と人材の多様性の確保について
- 大学改革と産学連携について
- STEAM人材の育成について

# 次期基本計画におけるEBPMによる効果的な進捗管理について

## 【現状認識】

- ◆ 基本計画と年次戦略である統合イノベーション戦略とを連動させる一体的なマネジメントがなされていない
- ◆ 指標と政策・施策の関連性が明らかになっておらず、目的達成に向けて投入すべき政策資源の検討が煩雑
- ◆ 指標のデータ収集、進捗状況の確認、対応策の検討を行うマネジメント体制が未確立
- ◆ 政策分析ツールとしてe-CSTIが立ち上がり、今後のEBPMに向けた基盤が確立

## 【あるべき姿】

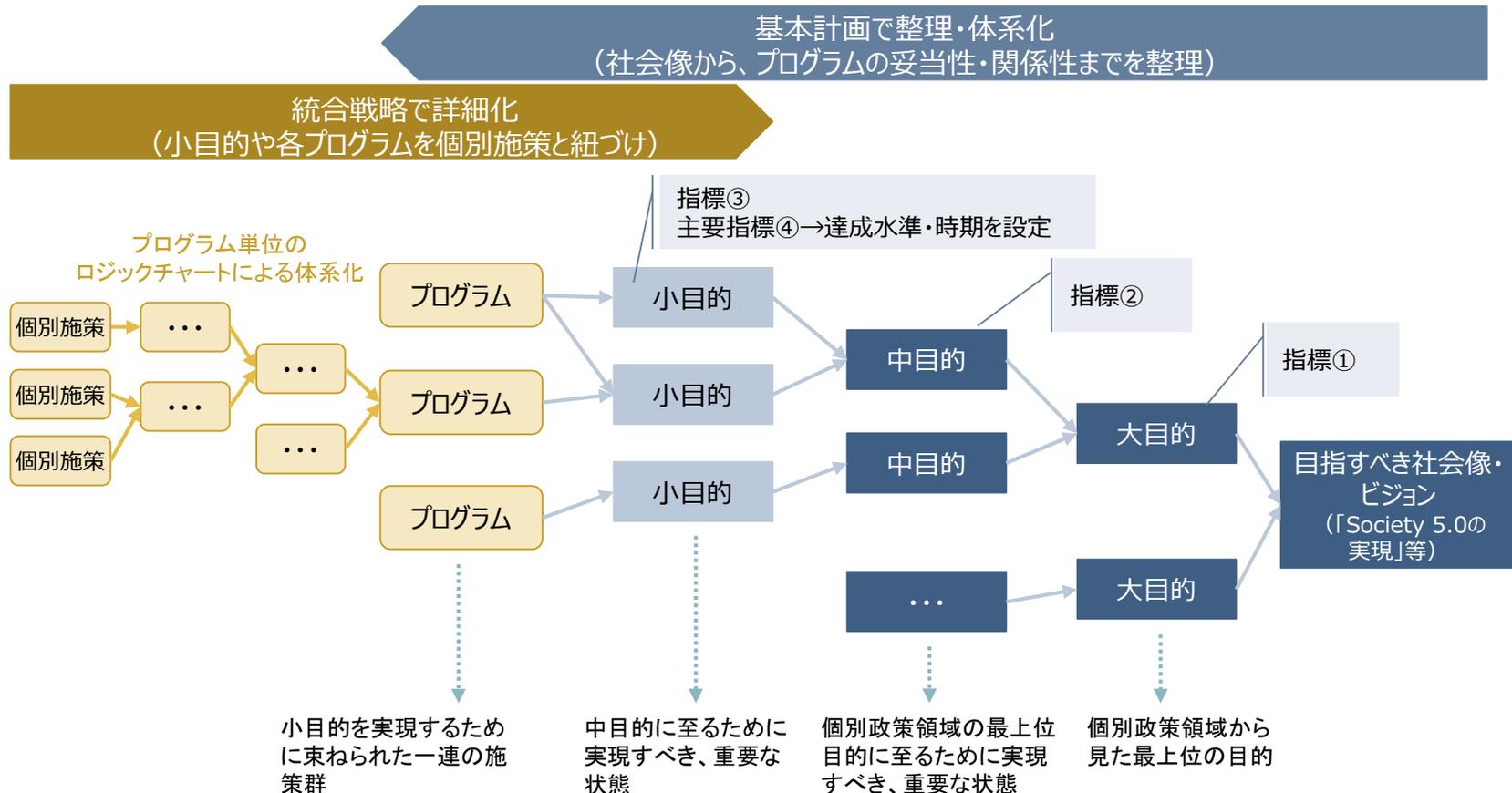
- ◆ **ロジックチャートや指標**を用いて基本計画の進捗状況を把握・評価し、政策の企画立案へ反映
- ◆ 評価を行う過程でロジックチャートや指標を継続的に改善

## 【取組の方向性(案)】

- ◆ 基本計画の進捗状況の把握・評価は、**評価専門調査会**においてロジックチャートや指標を用いながら実施し、その結果を随時木曜会合等へ報告
- ◆ 基本計画の評価を責任を持って推進する事務局体制を整備するとともに、各省が保有するデータを科技部局の評価担当部署が収集

# ロジックチャートの完成イメージと基本計画の範囲

- 「目指すべき社会像・ビジョン」を最上位としてそこに至る経路（中間的に目指すべき状態）をそれぞれ大目的・中目的・小目的と位置づけて体系的に整理する。
- 各状態には、その進捗をモニタリングする指標や、具体的な達成水準・時期を設定する。
  - ✓ 「指標」は、状態を代表する計測可能なもので、基本計画期間中にモニタリングする対象とする。
  - ✓ 指標のうち、科学技術・イノベーション政策が直接的に取り組むことが可能で、次期基本計画終了時に検証ができ、かつ「具体的な達成水準・時期」を設定するものを「主要指標」と位置づける。  
(例：科学技術関係経費、若手教員比率、研究時間)

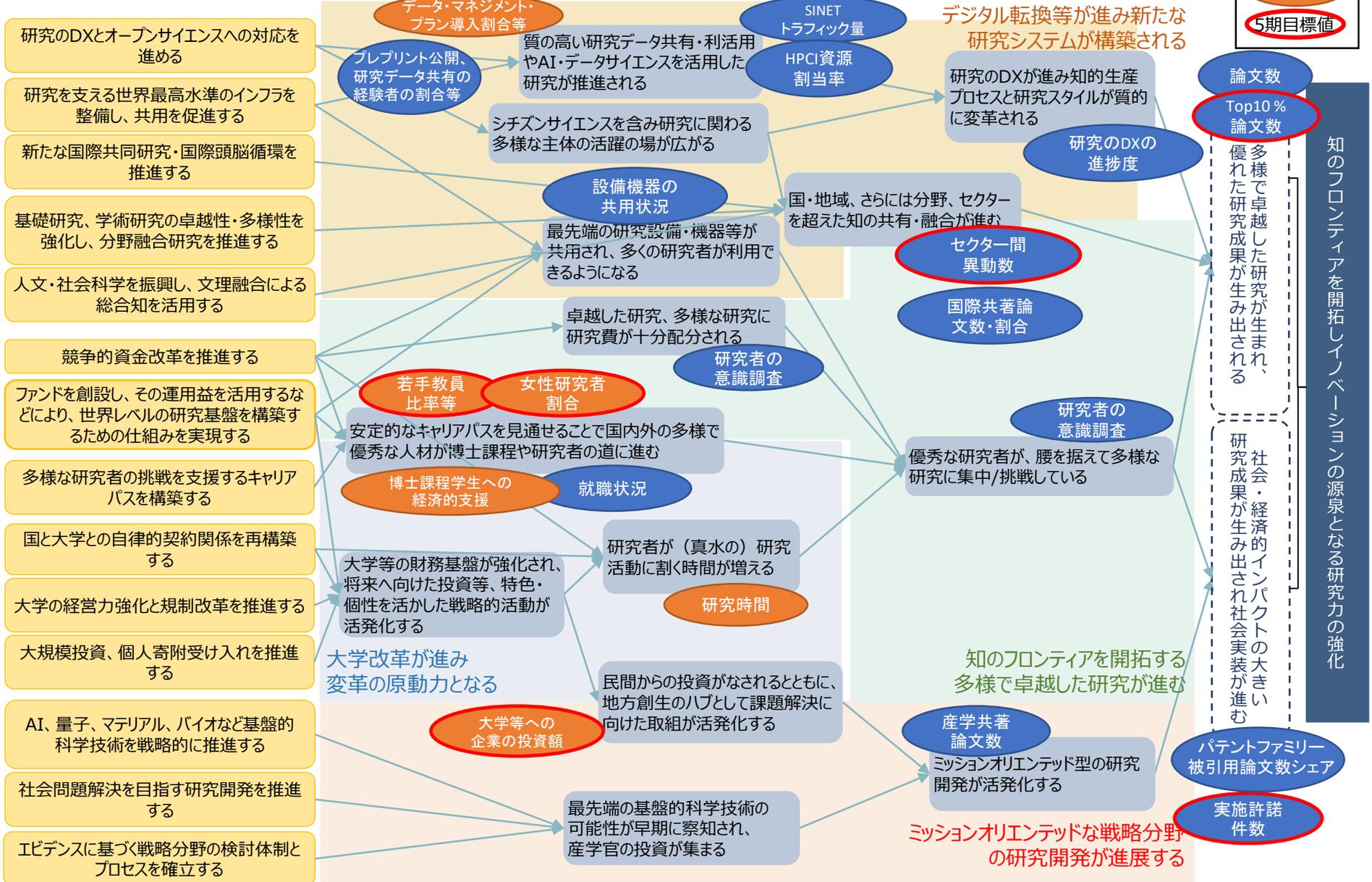


# ロジックチャートの例：研究力の強化

(構成・各項目・指標などは今後の議論に応じて見直し)

優先度が高く、本質的な主要指標として何を選定すべきか？

## プログラム



# エビデンスに基づく政策立案の必要性

内閣府にて必要なデータを収集し、関係者と共有するプラットフォームを構築

## エビデンスシステム (e-CSTI)

我が国の大学・研究法人等における  
「研究」「教育」「外部資金獲得」状況のエビデンスを収集・整理  
～インプットとアウトプットの関連を分析可能に～

関係府省庁

エビデンスに基づく  
より効果的・効率的な  
政策立案(EBPM)へ

大学・研究法人

エビデンスに基づく  
より効果的・効率的な  
法人運営(EBMgt)へ

大学等における「研究力」、「教育力」、「外部資金獲得力」の向上

我が国の科学技術・イノベーション力の向上

➤ <https://e-csti.go.jp>

e-CSTI Evidence data platform constructed by Council for Science, Technology and Innovation 本文へ

文字サイズ 標準 大 言語 日本語 English

TOP | e-CSTIとは | 分析 | お知らせ | お問い合わせ

e-CSTI

### e-CSTIとは？

客観的根拠（エビデンス）に基づき日本の科学技術政策の政策立案（EBPM: Evidence based Policy Making）及び国立大学法人・国立研究開発法人等の法人運営（EBMgt: Evidence based Management）を推進するため、科学技術イノベーション関連データを収集し、データ分析機能を提供するシステム（エビデンスシステム）です。

[詳しく知りたい方](#) >

- 2020年3月にe-CSTI分析機能を関係府省庁へ、7月末に国立大学・研究法人等へ利用開放を開始。
- 2020年9月1日、一般公開サイトを立ち上げ。

- 次期基本計画におけるEBPMによる効果的な進捗管理について
- **多年度での研究開発投資の安定的支援について**
- 若手研究者支援の強化と人材の多様性の確保について
- 大学改革と産学連携について
- STEAM人材の育成について

# 多年度での研究開発投資の安定的支援について

## 【現状認識】

- ◆ 研究者を取り巻く環境は厳しい上、論文数の国際的なシェアが減少※するなど、我が国の研究力が停滞
  - ※Top10%補正論文数は、4位(2003年) → 11位(2016年) 【出典】文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2020」
- ◆ 科学技術・イノベーションを中核とする国家覇権争いの中、新型コロナウイルス感染症を契機として、主要国は科学技術・イノベーションへの大規模投資の動きを顕在化

## 【あるべき姿】

- ◆ 科学技術・イノベーションへの投資は、**経済成長率の向上**や**社会的課題の解決**に向けた貢献が期待でき、未来への投資として大きな意義を有する
- ◆ **多様な財源による投資**が次世代の研究開発に回り、大学等における基礎研究と相まって、イノベーションの創出を促進

## 【取組の方向性(案)】

- ◆ 中長期にわたり安定的な資金を確保できるよう、**研究開発投資に関する目標設定**を行う
- ◆ 単年度予算の制約を乗り越える取組を一層加速  
(創発的研究支援事業やムーンショット型研究開発事業では基金を活用)
- ◆ 若手人材育成等に向けた世界に伍する規模の**大学等ファンド(仮称)**を創設し、その運用益を活用するなどの仕組みにより世界レベルの研究基盤を構築
- ◆ エビデンスに基づき適切なファンディングの在り方を検討するとともに、ESG投資やインパクト投資の更なる活性化を図るなどして、**投資の質を向上**